

成長するまちづくり ～花・みどりから高齢化対策へ～



つきみ野自治会 環境部 つきみ野まちづくり委員会

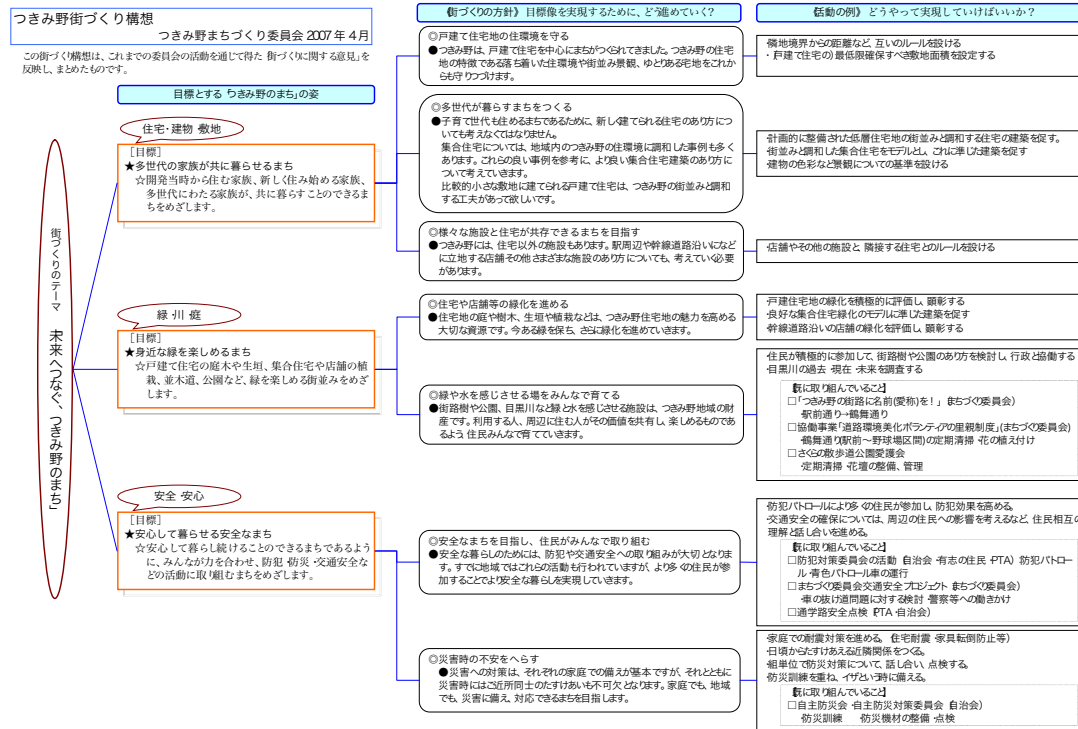
神奈川県大和市つきみ野

(1) 活動地域の概況、特徴、まちづくりの課題など

- ①東急電鉄田園都市線つきみの駅を中心とした、ほぼ住宅のみ（約 6,000 世帯）で構成されたまち
- ②区画整理でつきみ野が誕生してから50年。住民の高齢化と地域の老朽化が進んでいる。
- ③自治会やまちづくり活動については、昔から住んでいる方の活動は弱まり、新しく住む方は参加に消極的
- ④つきみ野に誇りを持っている方は多い。

(2) まちづくりの活動の背景、契機、経緯、ヒストリーなど

- ①2000年につきみ野サティがオープンした際、自治会ではつきみ野はどのようなまちを目指していくべきか議論になった。
- ②2002年からまちづくりの活動を開始。
- ③2006年、「つきみ野街づくり構想」を策定。



目標とする「つきみ野のまち」の姿

を
多世代の家族が共に暮らせるまち
身近な緑を楽しめるまち
安心して暮らせる安全なまち
 と整理した。

④2009年、「つきみ野の景観づくりの方針」策定。

⑤2022年、大和市みんなの街づくり条例上の「地区街づくり準備会」として登録。

(3) まちづくり活動の理念、目標、コンセプトなど

規約では、つきみ野まちづくり委員会の目的を、

「つきみ野の活力と魅力を高め生活の質を向上させるため、将来構想・方針・計画の案などを策定し、つきみ野自治会の他の組織と連携して実現することを目的とする。」

としている。

将来的には、地域の価値を高める活動を自ら行えるエリアマネジメントを志向している。

(4) まちづくり活動の内容、特色、今後の展開など

①長年、「まちづくり」では人が集まらなかったため、2022年から「つきみ野街づくり構想」2番目の目標「花とみどり」に注力することとした。

②2022年、日本都市計画家協会の「地域向け出前講座」と「プレイスメイキングワークショップ」の支援を受ける。

③「花とみどり」の活動に注力してから参加者が増え、つきみ野駅前の歩道と公園で「駅前花畑」と称するゾーンをつくり上げることができた。

④「駅前花畑」を通じて、つきみ野内の生花店や園芸店も委員会の委員になってくださった。安く購入できたりアドバイスを受けられる様になった。

⑤当面、つきみ野全体が「花とみどり」を大事にするまちになるよう、様々な施策を続けたい。また、ルールづくりも検討したい。

⑥短期的には、駅前通り全体を花で彩りたいので、2023年から植樹柵に花を植える方（植樹柵委員）を募集して、植える方と場所を管理していく予定。

⑦主に「駅前花畑」を維持する資金面のニーズから、2023年、法人会員の開拓も始めた。（横浜信用金庫さんが第1号）

⑧また、2023年には「駅前花畑」の一角の公園について、花壇等を含む改造案を作成する。2024年には都市緑化機構の助成金へ応募し実現を狙う。

⑨当面、「花とみどり」に関する諸活動を推進することによって、植樹柵委員や法人会員など、まちに関心を持つ人を増やし、委員会の基盤を固めたい。

⑩次の分野への展開の布石として、2023年度中には、鶴舞通りへのベンチ設置など、高齢化に関する諸問題の検討会を立ち上げる予定。

⑪長期的には、地域に関わる多様な主体を巻き込み、様々な課題について自らエリアをマネジメントできるような組織を目指していきたい。

(5) まちづくり活動の主体、組織、連携体制など

①つきみ野自治会の内部組織なので、自治会の他の組織と連携して活動できるのは強み。

②「駅前花畑」を通じて、つきみ野内の生花店や園芸店も個人として委員会の委員になってくださった。

③2022年度までは、つきみ野自治会の内部組織で個人だけが参加していたが、2023年、法人会員第1号として横浜信用金庫さんが参加してくださった。

	④更に、2023年度には、つきみ野商店会にも参加・協力を打診し、法人会員の勧誘を続ける予定。
	⑤2023年、園芸講座の開催に協力することで、法人会員ではないが、大和市のつきみ野学習センターとの協力関係が築けた。
	⑥また、2023年度は、「駅前花畑」などを題材に、つきみ野にある小学校・中学校・高校にも協力関係を打診する予定。
	⑦「駅前花畑」を通じて、大和市の道路管理課と公園管理事務所とは気安く相談できる関係となっている。
	⑧「駅前花畑」を通じて、駅前広場の活用は実現していないが、所有者である東急電鉄さんとも相談できる関係になった。
	⑨「駅前花畑」の水やりのために、駅前建物の管理会社である東急プロパティマネジメントと水道をお借りする協定を結べた。
	⑩大和市の街づくり推進課からは、現状「地区街づくり準備会」として専門家の派遣などの支援を受けている。将来は「地区街づくり協議会」を目指したい。
	⑪大和市の道路管理課からは、アダプトプログラム登録者として花苗の提供などの支援を受けている。
	⑫大和市の公園管理事務所からは、公園愛護会登録者として花苗の提供などの支援を受けている。
(6) まちづくり活動の費用、財源、収益など	
	①2022年度までは自治会の予算プラス大和市の支援によって活動していた。
	②ただし、「花とみどり」の活動には資金が必要ことがわかり、自治会の予算だけでは頼れないので法人会員、寄付金などを検討することとした。
	③横浜信用金庫さんが法人会員になったので、2023年から、上記に加え法人会費が見込まれる。
	④2023年から、「花とみどり」に関しては、神奈川県公園協会その他、様々な花苗等の支援事業に応募している。
	⑤また、現在、ブックオフさんと、書籍・CD・DVDなどの現金化による寄付（「キモチと。」という仕組み）について検討中。
(7) まちづくり活動の成果、地域への貢献など	
	①つきみ野駅前を、「駅前花畑」と称して「花とみどり」で彩ることができた。
	②つきみ野まちづくり委員会へ勧誘しやすくなり参加者が増えた。また、まちに関心を持つ人が増えた。
	③様々な意見が出るようになり活動を広げやすくなった。
	④法人等、地域に関わる多様な主体に声をかけやすくなった。
	⑤資金の獲得方法について様々なトライをできるようになった。
	⑥横浜信用金庫さんの場合、法人会員になって頂くと同時に、周辺の道路をアダプトプログラムに加えて花植えなどの美化活動の対象地を広げられた。
	⑦横浜信用金庫さんとは法人との関係のモデルケースを考えることとしており、次の法人を勧誘するノウハウづくりにもなっている。
	⑧上記(6)⑤の「キモチと。」が実現できれば、自治会会員が家をきれいにできる新たな仕組みが加わり、それによってまちをきれいにすることに繋がられる。